

INFORMATION

No. 1810-21

新規受託のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
この度、下記の項目につきまして、新規受託を開始させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

敬具

記

■検査要項

コード	検査項目名	採取容器	検体量	検査方法	基準値 (単位)	所要 日数	実施料 [判断料区分]
1190	25-OHビタミンD(骨粗鬆症)	A	血清 0.5mL (冷蔵)	ECLIA	下記参照※ (ng/mL)	3日～ 5日	117点 [生化学的 検査(I)]

※ 基準値に関して

25-OHビタミンDは、性別・年齢・食生活・日照環境・季節・活動時間帯・出身地(生活地)等、種々の要因により変動するため、基準値を取得する母集団の選択が非常に困難となります。無作為に選択された母集団での基準値をもって判断することが出来ないため、基準値の設定を行っておりません。
なお、「ビタミンD不足・欠乏の判定指針(策定:厚生労働省難治性疾患克服研究事業ホルモン受容機構異常に関する調査研究班、日本骨代謝学会、日本内分泌学会)」において、次の数値が示されています。

	25-OHビタミンD濃度	単位
ビタミンD欠乏症	20.0 未満	ng/mL
ビタミンD不足	20.0～29.9	ng/mL
ビタミンD充足状態	30.0 以上	ng/mL

(裏面をご参照ください。)

■受託開始日

平成30年11月 1日(木) より受託開始

株式会社 武蔵臨床検査所

* お問い合わせは当社または担当者までお願いいたします。

〒358-0013 埼玉県入間市上藤沢309-8
TEL 04-2964-2621 FAX 04-2964-6659
URL <http://www.e-musashi.co.jp>

■25-OHビタミンD(骨粗鬆症)

ビタミンDは食事摂取あるいは皮膚への紫外線照射により体内に供給される脂溶性ビタミンです。その大部分が肝臓において25位が水酸化されて25-ヒドロキシビタミンD(25-OHD)に変換され、ビタミンD結合蛋白と結合して安定的に血中を循環します。また血中半減期が約3週間と比較的長いことから、25-OHDの血中濃度測定は生体のビタミンDの充足状態を把握する指標とされています。

ビタミンDは生体内でその代謝と作用が厳密に調節され、骨・カルシウム代謝調節に密接に関与しています。また、血中25-OHD濃度は副甲状腺ホルモン(PTH)濃度と逆相関するため、25-OHDの低下はPTHの上昇を引き起こし、骨吸収亢進／骨密度の低下および骨粗鬆症を発症させることにより、骨折のリスクを上昇させる要因となります。さらに、間接的にも筋力低下による転倒リスクを高め、骨折の発生リスクを増加させることが指摘されています。

多くの臨床研究により、未治療の骨粗鬆症患者において血中25-OHD濃度が低いほど骨折発生率が上昇し、25-OHD低値群では転倒経験割合や転倒回数が有意に多いことが報告されていますが、血中25-OHD濃度を1ng/mL上昇させると転倒リスクをおよそ3%低下させることが可能と推計されています。

さらに、ビスホスホネート療法による骨密度改善効果が骨粗鬆症患者のビタミンD充足度により有意差があることも報告されています。

25-OHDの血中濃度測定は骨粗鬆症患者における骨折・転倒・骨密度低下リスクの評価や薬剤治療方針の決定、その効果予測に有用と思われます。

◇参考文献◇

Tamaki J, et al: Osteoporosis Int 28(6):1903-1913, 2017.

岡崎 亮, 他: 日本内分泌学会雑誌 93(Suppl. March):1-10, 2017.

※弊社の既存受託項目「25-OHビタミンD(Total)／コード;1188」は、ビタミンD欠乏性くる病、ビタミンD欠乏性骨軟化症が算定対象であり、対象疾患と検査実施料が異なりますので、ご注意ください。

◇算定留意事項◇

ア ECLIA法を用いた25-ヒドロキシビタミンDは、区分番号「D007」血液化学検査の「30」KL-6の所定点数に準じて算定する。

イ 本検査は、原発性骨粗鬆症の患者に対して、ECLIA法により測定した場合にのみ算定できる。ただし、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定する。

ウ 本検査を行う場合には、関連学会が定める実施方針を遵守すること。